



海外短期実習報告(大韓民国)

九州大学 グリーンアジア国際リーダー教育センター助教
渡邊 智明

2016年2月3日から2月6日にかけて、グリーンアジア・プログラムは、韓国・海外短期実習を行いました。これは、グリーンアジアのコースワークの一環で、今年度は韓国・延世大学を訪問し、共同シンポジウムに参加する形で行いました。今回は、グリーンアジアのコース生に加え、九州大学大学院総理工学府の留学生コースであるIEIの学生も参加しました。全体として、教員11名、学生43名の計54名というこれまでにない規模となりました。

2月4日に行われたシンポジウムの1日目では、延世大学から4名、九州大学から3名の研究者の発表があり、工学・化学系の最新の研究成果に触れることができました。また、セッションをはさんで、延世大学の教員と昼夕食を共にし、交流を深めることができ大変有益でした。さらに、延世大学の研究室訪問(ラボツアー)があり、研究室の機器、設備について実際に目に触れる貴重な機会を得られました。延世大学の設備について言えば、全体として本学の設備とそれほど変わらないという感想を持ちました。他方で、使用する機器や試薬などは、日本や欧米のものが多く韓国製のはあまり目に留まらなかったように思います。また、新たな研究棟が増設されているが、旧来の建物との往来が容易になるように配慮されている、という印象を持ちました。

2月5日に開かれたシンポジウム2日目は、学生セッションを行いました。延世大学からは6名の学生が、グリーンアジアからはD1、M2の

計9名の学生が発表を行いました。教員だけでなく、学生からも活発な質問があり、有益な意見交換を行うことができました。特にグリーンアジアの学生から積極的に質問の手が上がったことは、今回の研修における能動的な参加という点で評価すべきことであると思います。あわせて、延世大学学生によるキャンパス・ツアーがあり、大学・図書館設備などを見学しました。

短期研修最終日である2月6日には、学生とともに、韓国国立中央博物館を見学しました。朝鮮半島の古朝鮮、三国、統一新羅、渤海、高麗、李氏朝鮮に至る2000年以上の歴史を紹介する展示を介して、韓国の歴史および日本との交流の歴史を確認することができたと思います。また、統一新羅期の仏教美術をはじめとする多くの美術品の展示を目にすることができた点も有益であったと思います。

最後になりましたが、今回の研修に御協力頂きました、延世大学、特にシンポジウムのコーディネートを行って頂いた Han Byungchan 先生には厚く御礼申し上げます。諸事情により、海外研修先が突然変更となり、11月中旬から2月上旬までの実質2ヶ月というかなり短い準備期間しかない中で、何とか今回の海外研修を成功裏に終えることができたのは、ひとえに延世大学の速やかな意思決定と多大なる尽力によるものです。グリーンアジアとして、深甚感謝の意を申し述べたいと思います。有難うございました。

